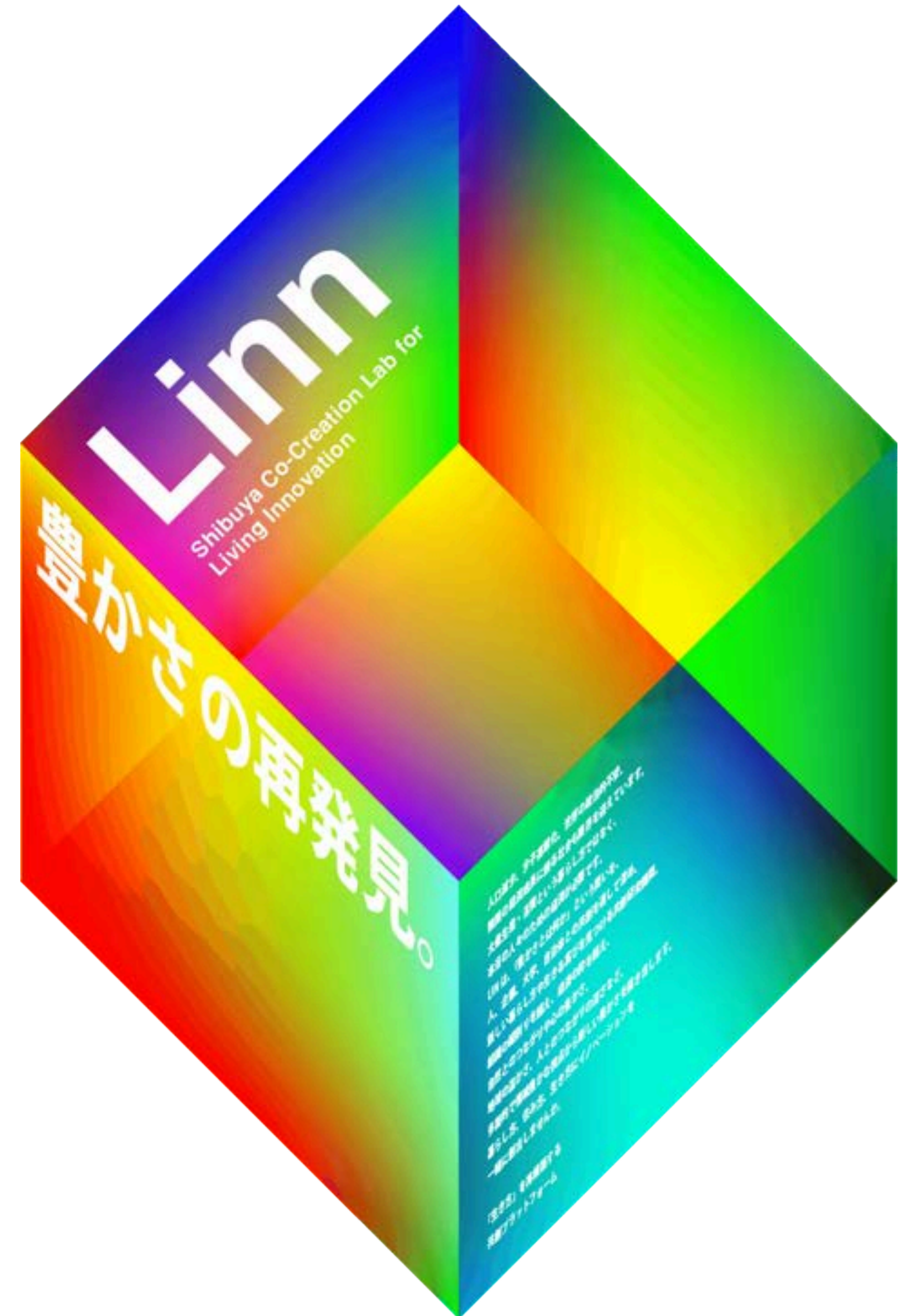


Linn program 第2期

応募概要資料

2026.6.22 最終更新

SHIBUYA Co-Creation Lab for Living Innovation 事務局



産官学文連携プロジェクトを創出するための、3ヶ月の共創プログラム

Linn Project

Co-Creation Program

参加者募集開始

プログラム期間：2026年7月～9月

Supported by SHIBUYA QWS Innovation協議会＋ADDRc株式会社

産官

渋谷の街と連続しながら成長してきた共創施設

「SHIBUYA QWS」だからこそできる

企業と大学の連携だけでなく

自治体もクリエイターも、政治家も参加する

新たなエコシステム「Linn」

学文

人口減少、高齢化。経済的停滞がつづくこの国で、必要なのは、人の「生き方や住まい方のイノベーション」ではないだろうか。

「Linn」はこれまでの延長線上にはない、非連続的な場作りを行います。

Linn Project Co-Creation Program

産官学文連携のシードプロジェクトを創出するための3ヶ月の共創プログラム。「暮らしと住まい」に関連するトピックに対して、参加者が自社/自分のリソースとの掛け合わせで、連携を前提としたプロジェクト/研究アイデアを創出します。

なぜSHIBUYA QWS

という場にLinnが必要なのか？



SHIBUYA
QWS Innovation 協議会

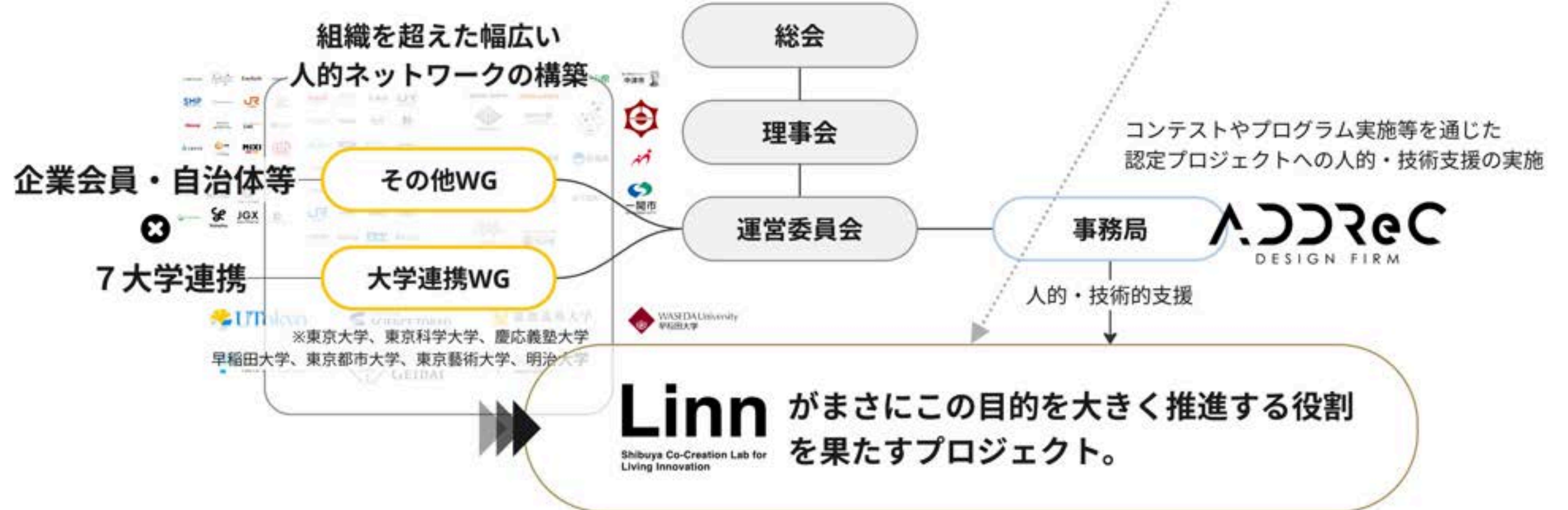
組織目的

“日本をイノベーション立国へ。”

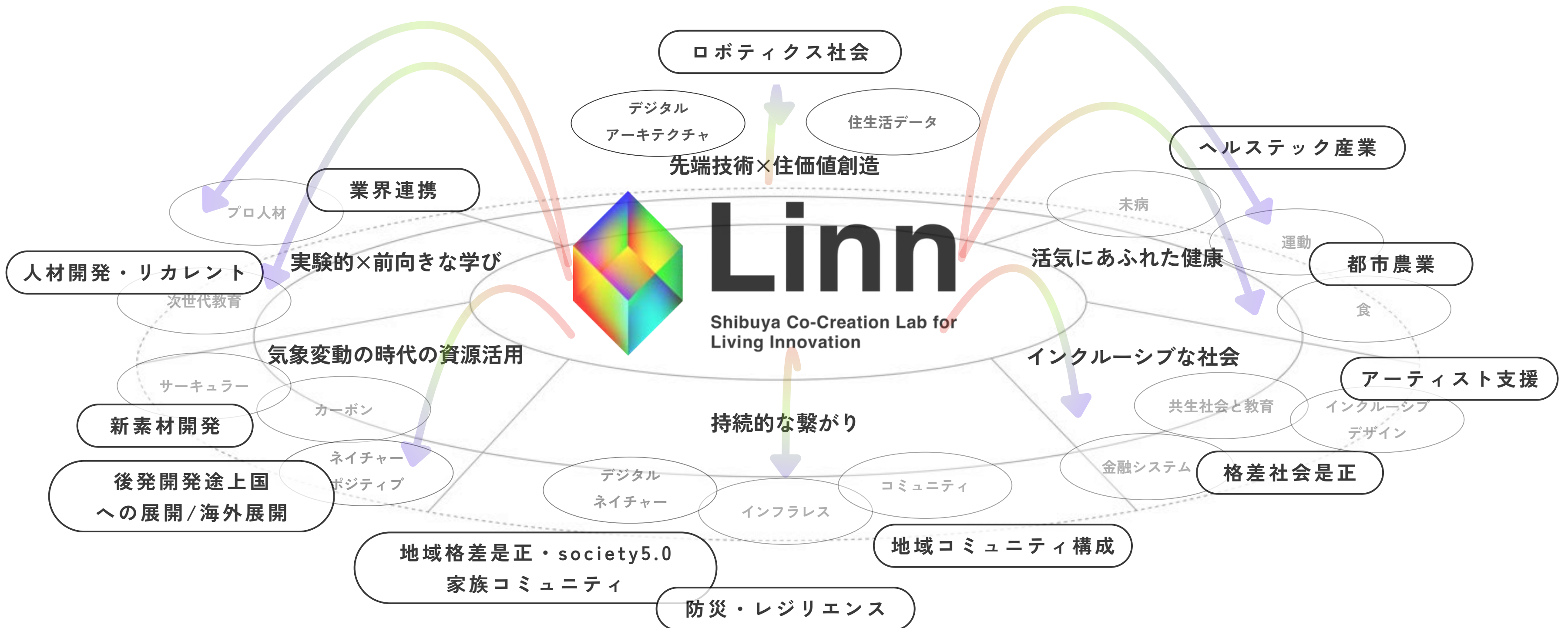


- ✓渋谷ならではの地域特性◎
- ✓技術分野を超えた新しい発想による知の融合
- ✓新しいビジネスモデルの創出
- ✓ユーザー目線のアイデアと技術知見の融合

▶ イノベーション推進による社会課題解決、
そしてクリエイティブ人材の育成



Linnが目指すのは、
”社会実験” ”実証実験” ”事業開発” を推進する共創プログラム、
それを介した、共創が共創を生むプラットフォームづくりです。



産官学文連携のシードプロジェクトを育むための3ヶ月間の共創プログラム 「Linn Co-Creation Program」

領域の横断が難しい「産・官・学・文」が、「暮らしと住まい」というテーマを軸にして共創し、大学、企業、その他の参加者の共同での研究・プロジェクト・新規事業のアイデアを創出することを目的として、「ワークショップ型のプログラム」を実施します。

産官学文にとっての「出島」

大学、企業、その他の参加者にとって、
日常の組織的・業務的制約を超えて、
自由かつ柔軟な発想・議論
を可能にする「出島」としての
創造的な空間としてのプログラム

ビジョナリーなシンクタンク

交流や議論などの機会提供にとどまらず、
Linn自体が産官学文が集う「ビジョナリーな
シンクタンク」として、具体的なプロジェクト
創出成果を生み出していく場所へ

共同プロジェクトの創出の加速

形式的な参加者ではなく、将来的に
共同プロジェクトや共同研究を主体的に
推進する意欲・能力を持った人材・組織を
様々な分野が集まったプログラム

QWS Co-Creation System for Living Innovation

本当の暮らしの豊かさってなんだろう？

人口減少、少子高齢化。世界の政治的不安。

無限の経済成長に頼る社会も限界を迎えています。

大量生産・消費という暮らし方ではなく、本当の人々のための経済が必要です。

Linn SHIBUYAは、「豊かさとは何か」という問いを、人、企第、大学、自治体との共創を通して

深め、新しい暮らし方や生きる喜びを見つける共創研究実践機関。

組織の根割りを超え、経済の枠を超え、自然とのつながりや心の豊かさ、地域の温かさ、人とのつながりの深さなど

多面的で情緒かな視点から新しい豊かさを描き出します。

暮らし方、住まい方、生き方のイノベーションを一緒に創出しませんか。

3つのサブテーマに対して、3名の専門家をテーマオーナーとして招待。

参加者と共に新しい研究・事業開発・実証実験の誕生を目指します。

Linn メインテーマ

「暮らしと住まい：Living Innovation」

プログラムサブテーマ
渋谷区まちづくり

プログラムサブテーマ
テクノロジーと都市

プログラムサブテーマ
旅と観光

ビジョナリーな「インスピレーショントピック」の提示



2期テーマオーナー
渋谷区議会議員
橋本 ゆき氏



2期テーマオーナー
慶應義塾大学
メディアデザイン科教授
南澤孝太氏



2期テーマオーナー
東京都立大学
国際センター 教授
小松崎俊作氏

1.ちがいを力に変える都市のつくり方

| テーマオーナー（橋本ゆき）

渋谷区には、住む人、働く人、学ぶ人、訪れる人、表現する人、支援を必要とする人など、多様な人々の生活と活動が重なっている。

その“ちがい”は、ときに摩擦や分断を生む一方で、都市を更新するための大きな創造力にもなっている。

これからのまちづくりに求められるのは、行政だけで計画をつくることでも、企業だけで都市を開発することでも、大学だけで未来像を描くことでもないと思う。

生活者の実感、行政の制度設計、企業の実装力、大学の知見を結びながら、渋谷に関わる一人ひとりが都市の当事者になれる仕組みをつくることではないだろうか？

本企画では、渋谷区の未来像である「ちがいをちからに変える街」を出発点に、産官学民がともに考え、試し、更新していくこれからの都市のつくり方、そして実際にプロジェクトを生み出してみたい。



ちがいを力に変える/多様性を都市の原動力にする/ダイバーシティ&インクルージョン/生活者起点のまちづくり/参加される都市/共につくる都市/都市の当事者性/公共性の再設計/渋谷らしさの更新

2.身体感覚から考える、これからの暮らしと住まい

| テーマオーナー（南澤孝太）

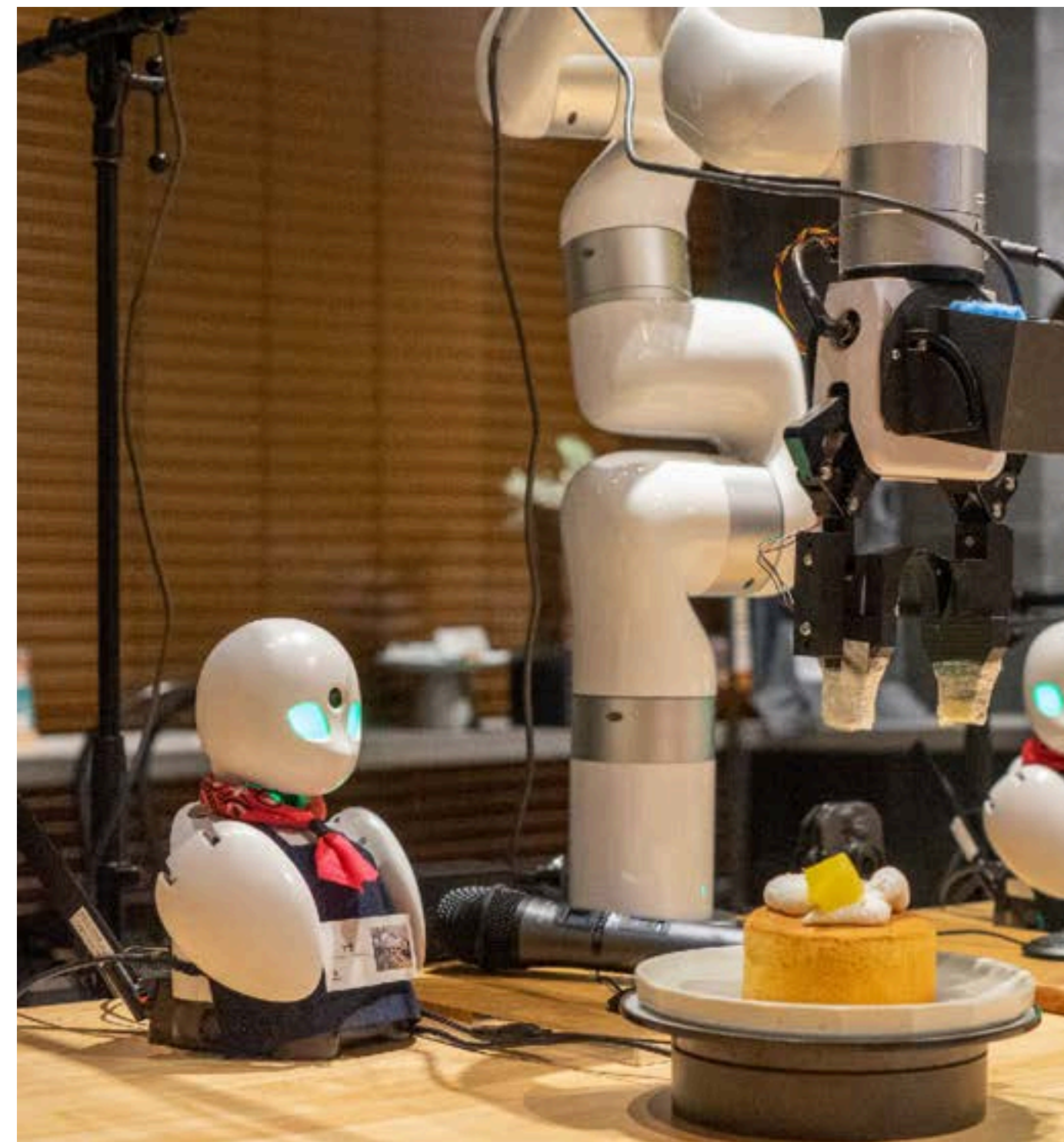
暮らしや住まいは、単に建物や部屋の問題ではない。

そこには、触れる、座る、歩く、眠る、話す、食べる、誰かと過ごすといった、日々の身体的な経験が積み重なっている。

一方で、高齢化、単身世帯の増加、働き方の変化、孤独、ケア、障害、テクノロジーの進化によって、「自分らしく暮らす」ための条件は大きく変わりつつある。

これからの住まいは、空間を所有する場所であるだけでなく、身体感覚や関係性を支え、拡張し、他者とつながるための環境になっていくのではないか。

本テーマでは、ハプティクス、VR、人間拡張、身体性メディアの研究を手がかりに、企業の実装力、行政の制度設計、大学の研究知を結びながら、これからの暮らしと住まいのあり方を考え、新たな産官学のプロジェクトを創出していく。



暮らしと住まい/身体感覚/身体性/触れる/感じる/つながる/自分らしく暮らす/生活環境/ケア/ウェルビーイング/居場所/関係性/生活の質

3.まちの魅力はどこにある？ひとはなぜ旅に出る？

| テーマオーナー（小松崎俊作）

日本人は観光が好きで、そこには固有のこだわりが見られる。お土産はその最たる例で、近年はデザイン性が向上し、普及品から素材・製法にこだわった高級品まで幅広い。

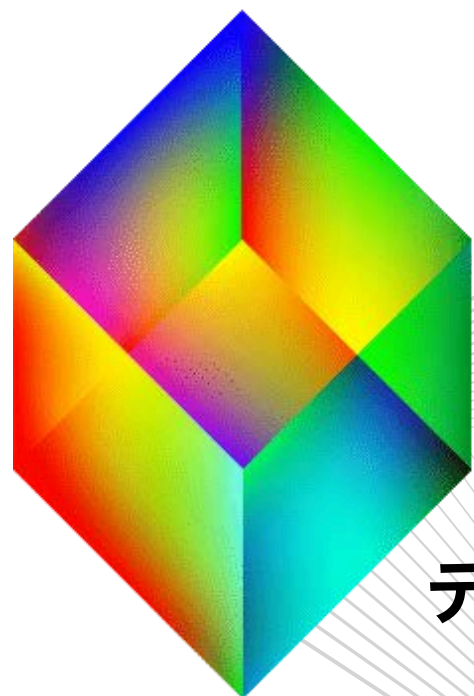
しかし、美しい道の駅に行っても、なぜか「ここに欲しいものはない」と感じてしまう。観光振興によって、見えづらい価値が損なわれてはいないだろうか。

それは人や自然の積み重ねで形成され、容易に取り戻せないかもしれないのに。

そもそも旅は、たとえ気分転換に街歩きに出る小さな旅であっても、自分自身を変える学びの機会である。生の体験を通じて情動的影響を受け、自分が変わる。その学びとしての価値を突き詰めることが、魅力ある旅のデザインにつながるかもしれない。



見えづらい価値／人と自然の積み重ね／旅行者と住人／学び／生の体験
／情動／自分が変わる／エクストリームケース／合理・非合理



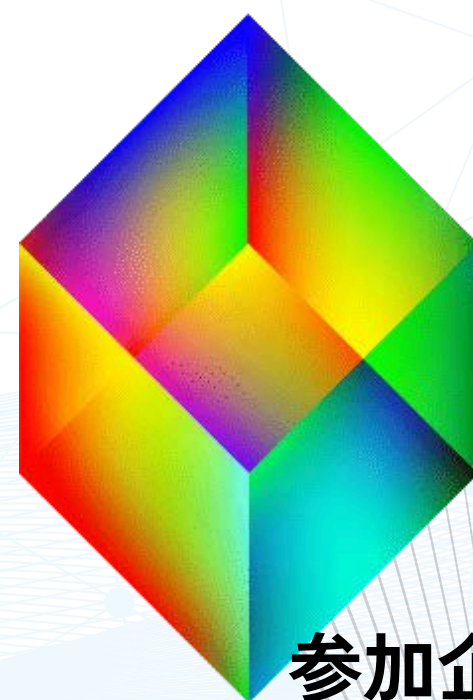
テーマオーナーや
参加者同士で
『共同研究』が生まれること。

例えば...

業界を超えた横断型イノベーション

新しい技術のコラボレーションの発見

Linnプログラムで
想定される3つの成果物

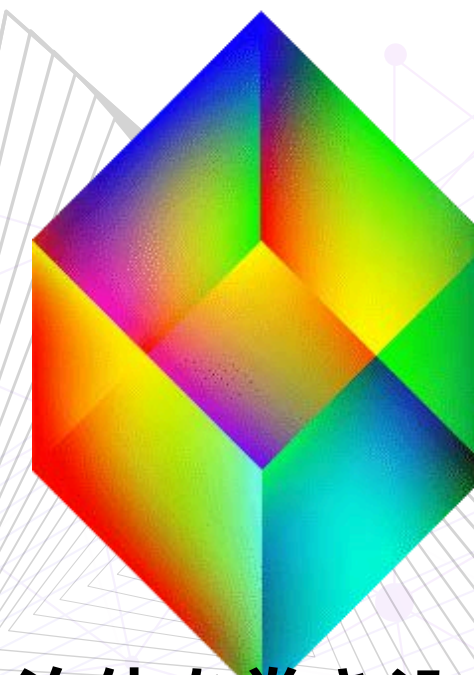


参加企業と研究者間で
『新規事業開発』が生まれること。

例えば...

論文発表を前提とした新規事業開発

アドバイザーとして事業参画



地域や自治体を巻き込んだ
協働型社会活動が生まれること。

例えば...

子どもの学びの場の社会実装

新しい防災システムの協働構築



橋本 ゆき

渋谷区議会議員

渋谷区議会 最年少議員

株式会社ツギステ 創業者

東京大学文学部 卒業

元アイドルグループ「仮面女子」メンバー

タレント活動において報道番組、選挙特番などでコメンテーターを務める。誰もが「明日も頑張ろう」と思える社会を実現するため、仮面女子を卒業、政界へ。多様な学び・女性の健康支援・ダイバーシティ・まちづくり・セカンドキャリア支援などに取り組む。



南澤 孝太

慶應義塾大学大学院

メディアデザイン研究科 (KMD) 委員長・教授
科学技術振興機構ムーンショット型研究開発事業
・目標1プロジェクトマネージャー

2005年東京大学工学部計数工学科卒業、2010年同大学院情報理工学系研究科博士課程修了、博士（情報理工学）。KMD Embodied Media Projectを主宰し、身体的経験を共有・創造・拡張する身体性メディアの研究開発と社会実装、Haptic Design Project を通じた触覚デザインの普及展開を推進。日本学術会議若手アカデミー幹事、テレイグジスタンス株式会社技術顧問





小松崎 俊作

東京都立大学 国際センター 教授

2003年 東京大学工学部土木工学科卒業，2005年 Rutgers, the State University of New Jersey, Department of Political Science修了（M.A.），2007年 同・School of Public Affairs and Administration博士課程中退，2012年 東京大学にて博士（工学）。公共政策の多元的・批判的分析を専門として，特にエネルギー政策，医療政策，インフラ海外展開，官民連携を対象とした研究を実施．一方で，ケースメソッドやイノベーション教育による実践的教育にも注力し，国内外で高校生～企業まで幅広く協働してきた。

全5回/各回2.5hのワークショップ型プログラムを開催し、産官学文の参加者が共創しながら、研究・プロジェクト・新規事業のアイデアを創出します。

Day1 : 7/22 (水) 1830-2130	Day2 : 7/24 (金) 1830-2130	Day3 : 8/4 (火) 1830-2130	Day4 : 8/14 (金) 1830-2130	Day5 : 9/2 (水) 1830-2130
未来洞察	トピック共有	アイデア創出①	アイデア創出②	アイデア洗練
メインワーク(2h)	メインワーク(2h)	メインワーク(2h)	メインワーク(2h)	メインワーク(2h)
<ul style="list-style-type: none">事前課題：「暮らしと住まい」のテーマに大きな影響を与えるマクロトレンド30選を紹介。サブテーマ3つに対して、それぞれ創造性を掻き立てる問いが設定されている。マクロトレンドに基づきながら、設定された問いに応える形で、未来社会を創造的に考察。サブテーマごとに未来社会シナリオを全体共有。	<ul style="list-style-type: none">テーマオーナーは、自らの組織・技術・事例紹介を行うさらに今回のサブテーマに関連して、今後の連携への示唆や問いをプレゼン、20分間/テーマオーナーを想定。その後テーマオーナーを移動させつつ、5チームくらいで質疑応答的な議論を行なって理解を深める。	<ul style="list-style-type: none">サブテーマ毎にチーム編成し連携アイデアを創出する。インスピレーショントピックに対して、自らの組織・個人としてのリソースを活用することで出来そうなアイデアを張り出す。全体的に投票したり、アイデアを追加したりして、有望度合いや実現可能性について、全体で創造的合意形成を図る。	<ul style="list-style-type: none">Day3とは異なるチーム、サブテーマで、Day3同様のアイデア創出を行う。	<ul style="list-style-type: none">Day4とDay5の間に、テーマオーナーと事務局で相談し、議論を深めてみたい連携アイデア候補を事前に特定しておく。テーマオーナーと連携候補先のチームをつくって、プランについて創造的な議論を行う。共同研究企画シート/プロジェクト企画シートとして情報整理。
サブワーク(0.5h)	サブワーク(0.5h)	サブワーク(0.5h)	サブワーク(0.5h)	
プロフィールシートを使って全体での自己紹介、一人1分	希望する参加者からの5分間ずつのトピック共有	希望する参加者からの5分間ずつのトピック共有	希望する参加者からの5分間ずつのトピック共有	

※プログラムは全てSHIBUYA QWSにて開催

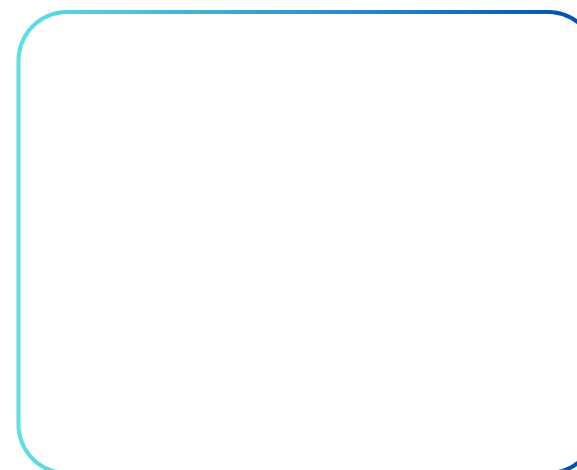
未来洞察から連携アイデアの創出まで ”産官学文”を越境しながらシードプロジェクトを生み出します。

Day1

① 未来洞察

成果物：未来社会シナリオ

10年後を見据えた、「暮らしと住まい」の未来社会像を描く。
3つのサブテーマで、マクロトレンドに基づいて、
未来社会のシナリオを創造的に考察していただく。
これからの社会での重要テーマへの理解が深まる。



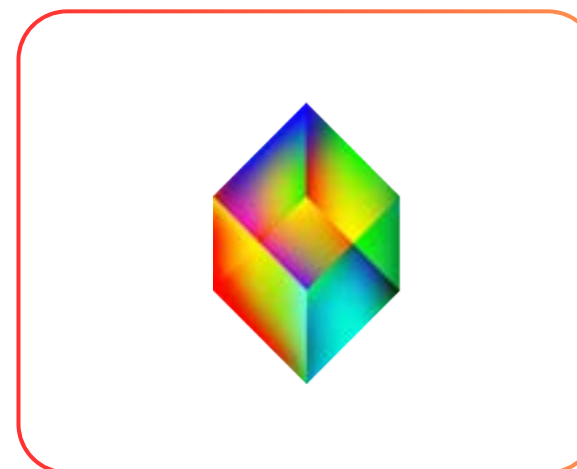
未来のシナリオ

Day2

② トピック共有

成果物：インスピレーショントピック

テーマオーナーから、自らの組織・技術・事例紹介と、
各サブテーマにおける今後の連携への示唆や問いをプレゼン。
先端的な知見や構想が参加者に共有される。



インスピレーション
トピック

Day3

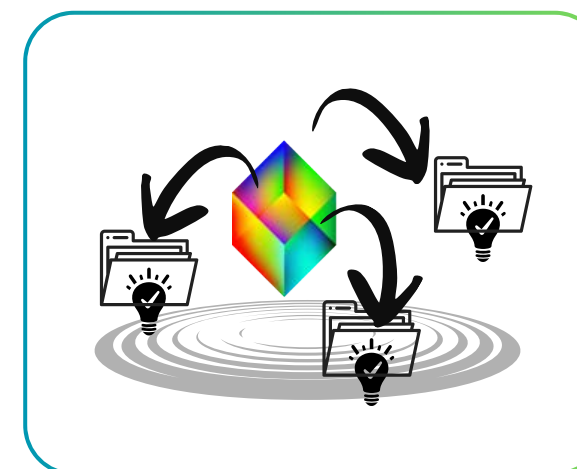
Day4

Day5

③ アイデア創出

成果物：連携アイデア

提供されたインスピレーショントピックに対して、
全参加者が自社/自分のリソースとの掛け合わせで、
連携を前提としたプロジェクト/研究アイデアを創出する。
所定のフォーマットで共同アイデアを整する。



連携アイデア

2期プログラムコーディネーター



横田 幸信

Yukinobu Yokota

i.school エグゼクティブ・フェロー

早稲田大学ビジネススクール非常勤講師

ADDReC イノベーション・ディレクター

イノベーション創出のための創造性教育と方法論開発を専門として、コンサルティング、研究、教育活動に従事。近年はAIによる人間の創造的思考の進化をテーマに研究とプロダクト開発を行っている。

九州大学大学院理学府修士課程修了。野村総合研究所を経て、2011年にイノベーション・コンサルティング企業i.labを共同創業。代表取締役として2025年まで13年間にわたり、大企業を中心とした新規事業創出、人材育成、組織変革を支援した。

i.schoolエグゼクティブ・フェロー、早稲田大学ビジネススクール非常勤講師。2025年よりADDReC株式会社イノベーション・ディレクター。アナザーハウス株式会社代表取締役も務める。

著書に『INNOVATION PATH』（日経BP）。発明者として国内外56件の特許出願・登録実績を持つ。

PMOメンバーの実装

2期では新しくPMOを動員し、参加される皆さんのアイデアを実装まで導く伴走支援を行います。

(※参加される皆様のコミットメントに比例して伴走支援の内容拡充予定)



石倉 達也/Ishikura Tatsuya

ビジョナリーキャンバス代表 (個人事業主)

情報の図解・構造化

ビジョンイメージの可視化



鈴木 雄大/Suzuki Yuta

合同会社tents. 代表

事業・場づくりの企画設計

構想の言語化・立ち上げ支援



平間 一輝/Hirama Kazuki

わづくる株式会社 CEO
別荘サブスク OURoom 創業者

アイデアの事業化・サービス設計

アライアンス/連携の組成

プログラム概要

プログラムで生まれた、連携プロジェクトの共同研究・プロジェクト・新規事業は、
「テーマオーナー」と「Linn事務局」が継続・推進判断を行います。

プログラム テーマオーナーによる継続推進判断



2期テーマオーナー
渋谷区議会議員

橋本 ゆき氏



2期テーマオーナー
慶應義塾大学
メディアデザイン科教授

南澤孝太氏



2期テーマオーナー
東京都立大学
国際センター教授

小松崎俊作氏

×

×

×

プログラムで生まれた
「共同研究アイデア」
〇〇大学×〇〇大学

プログラムで生まれた
「実証実験アイデア」
〇〇市×〇〇大学

プログラムで生まれた
「新規事業アイデア」
〇〇企業×〇〇大学

SQI協議会とイノベーションデザインに明るいADDReC株式会社が連携し 事務局機能を担い、連携プロジェクト創出や実現にコミット、サポートをします。



野村 幸雄/Nomura Sachio

渋谷スクランブルスクエア株式会社 営業
一部 部長 / SHIBUYA QWS エグゼクティブ
ディレクター / SHIBUYA QWS Innovation
協議会 運営委員長



横田幸信/Yukinobu Yokota

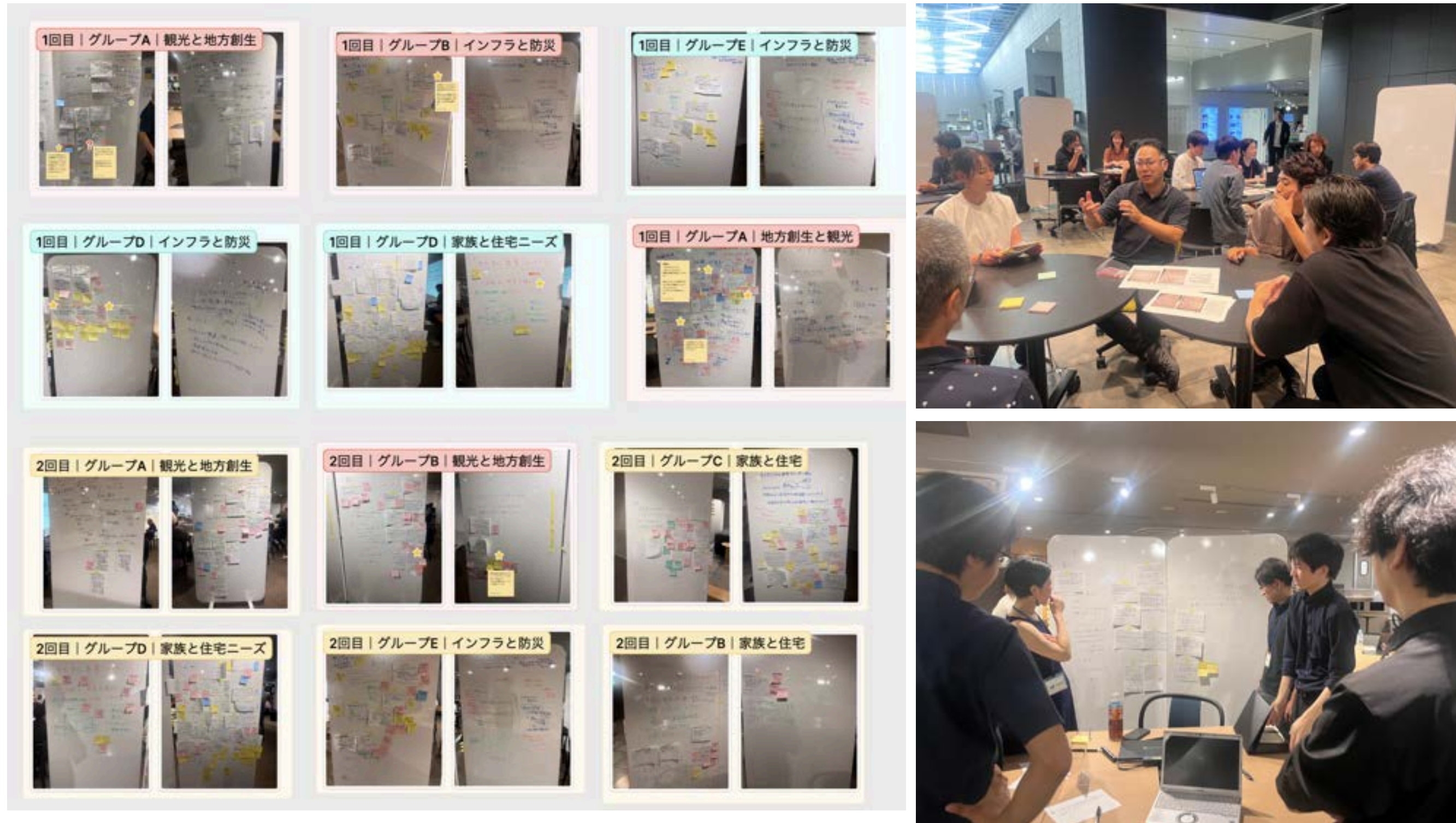
i.school エグゼクティブ・フェロー
早稲田大学ビジネススクール非常勤講師
ADDReC イノベーション・ディレクター



森原正希/Masaki Morihara

ADDReC株式会社ディレクター

Linn第1期では総勢23名で40以上のアイデアを3か月間で創出。



最終的に事業開発中心に新しいイノベーションが生まれました。



キックオフ会議実施

離れた人の気配を感じさせ
孤独問題を解消する
ハウジングシステム

大手企業×南澤研究室



某企業で事業検討中

防災姉妹都市を活用した
都市部と地方の関係人口の創出

大手企業×中山郁英先生



某企業で事業検討中

開発がいかんにして地域のレジリエンス
(防災力・回復力) や
幸福度を高めるか?の研究開発

大手企業×中山郁英先生

第1期実施後アンケート数値について

プログラム満足度

4.3 /5

プログラム推奨度

4.1 /5

QWSのエコシステム
における必要性

4.8 /5

2025年アンケートより作成

プログラム参加者10名のアンケート結果より抽出。
(内訳) 大学研究者2名、企業関係者4名、自治体職員2名

▼募集対象

以下のいずれか、または複数に該当する方・組織を募集しています。

- 「暮らしと住まい」に関心を持ち、社会に新たな提案を生み出したい、企業/自治体関係者/大学研究者/スタートアップ/大学生
- QWSコミュニティを活用し、分野横断のプロジェクト創出に取り組みたい方
- 形式的な参加ではなく将来的な共同研究・共創事業を主体的に推進する意思・能力のある方
- 組織の枠や専門性を越えて、未来社会に対する構想をもとに連携を志向する方
- 法人・団体等で、実務者複数名での参加が可能な組織

▼参加要件

- 5回の全ワークショップ（下記日程）への参加ができること（参加後、希望者には2ヶ月間の任意の実行支援フェーズがあります）
- 一組織からの参加は固定された最大3名まで（全日程参加必須）参加可能です。

▼参加費用

参加カテゴリ	参加費
下記費用で各組織最大3名まで参加可能	
SQI協議会／大学関係者（研究員/大学生含む）／自治体／QWSプロジェクトメンバー	無料
QWSコーポレートメンバー	10万円
一般組織	20万円

▼ 採択に関する備考（選考ポリシー）

本プログラムでは、参加者構成における多様性と公平性の確保を重視しています。以下の観点に基づいて、事務局にて参加者の選考・調整を行います。

- 民間企業に偏ることを防ぐため、「企業／自治体／大学／個人・その他」などの参加枠数を想定し、バランスの取れた多様な構成を目指します。
- 実際の応募状況に応じて柔軟に調整します。

◎ 選考基準

選考では以下の観点を総合的に評価します：

- 多様性への寄与（組織種別、業種、世代、性別、専門性など）
- プロジェクト創出や共同研究への主体性・意欲
- 組織内外のネットワークやリソースの提供姿勢
- QWSコミュニティや共創の文化への適応性

◎ 応募について

応募締め切り：**7月13日（月） 23:59**

応募方法：以下の 구글フォームにご回答の上、ご提出ください。

<https://forms.gle/srJqgfBX4wqnSACW6>



◎ ご応募にあたってのお願い

定員を超える応募があった場合、選考の結果としてご参加を見送らせていただく場合があります。これは、応募者個人・組織の能力や熱意の有無だけでなく、プログラム全体としての多様性・構成バランスを考慮した判断によるものです。

あらかじめご了承くださいませ。

質問	回答
Q1. チームでの応募は可能ですか？	はい、可能です。1組織あたり2～3名程度の参加を想定しています。フォームは代表者が記入し、他のメンバーは後日Slack等でご連絡ください。
Q2. 途中で参加できない日がある場合も応募できますか？	原則全5回の参加が必須ですが、やむを得ない場合は応募時に備考欄に記入ください。フォローアップも可能です。
Q3. 個人や学生の応募も可能ですか？	はい、歓迎します。フリーランスや学生も応募できます。（費用につきましては個別相談とさせていただきます。）
Q4. 参加費はかかりますか？	所属によって異なります。大学・自治体・QWSプロジェクトメンバー：無料、QWSコーポレートメンバー：10万円、一般組織：20万円、また左記費用にて一組織あたり最大3名までの参加が可能です。
Q6. Slackを使ったことがないのですが大丈夫ですか？	はい、大丈夫です。初めての方向けに使い方ガイドを用意します。基本的なやりとりができれば問題ありません。
Q7. 応募後の流れはどうなりますか？	以下のスケジュールで進みます：・7月13日：応募締切・7月15日：採否通知・7月17日（予定）～：Slack事前交流スタート・7月22日：第1回ワークショップ開催

Q&A

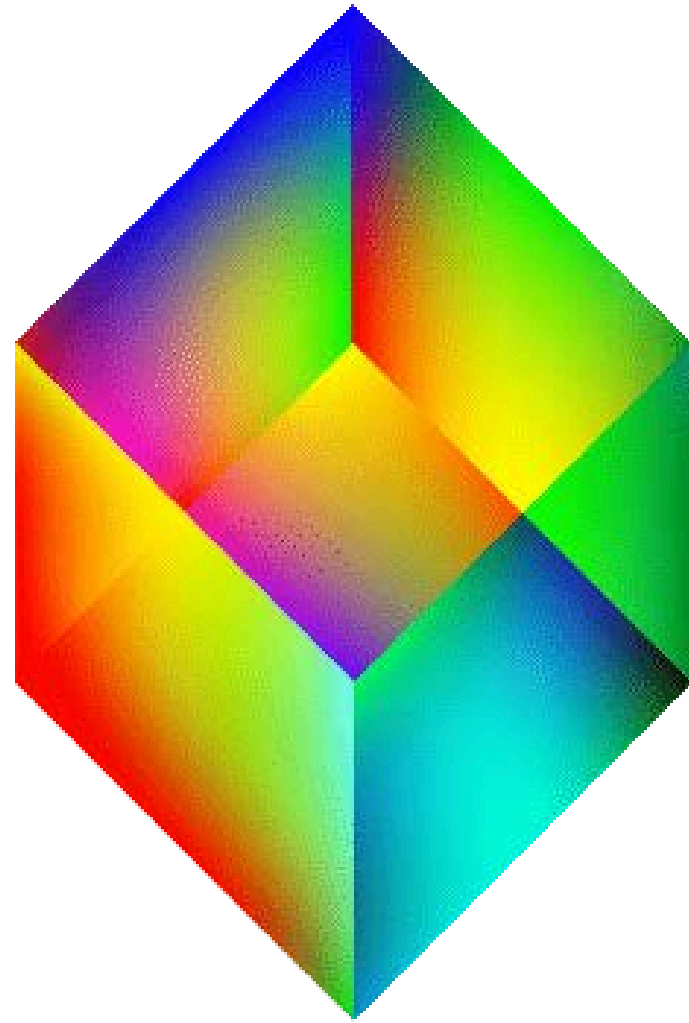
ご質問等は以下までお問い合わせください。
ご応募お待ちしております。

Linn Project Co-Creation Program 事務局

東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア内 SHIBUYA QWS

E-mail: linnshibuya@addrec.co.jp

Linn公式HP: linn-shibuya.jp



Linn

**Shibuya Co-Creation Lab for
Living Innovation**